

地域への影響を小さくするための構造の検討状況 (大泉ジャンクション)

「対応の方針」

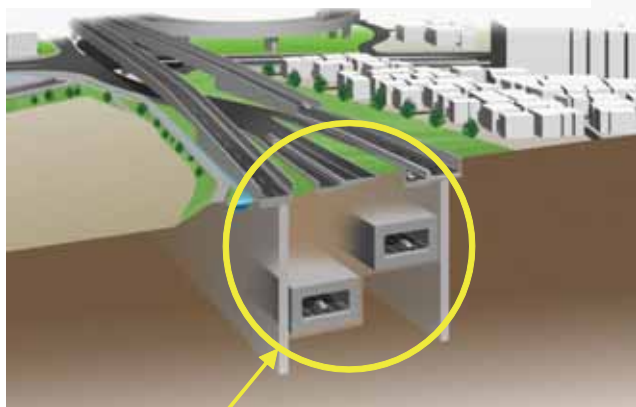
- 工事の実施にあたっては、関係機関と協議を行い、周辺地域への環境影響を極力抑えた工事計画とするとともに、工事の安全を確保したうえで、工事期間の短縮についても検討します。
- 八の釜の湧き水の環境保全措置については、武蔵野礫層からの取水が可能であり、環境施設帯等十分なスペースの確保が可能なこと等から、水源の確保による水辺環境の整備並びに動物・植物の生息・生育環境の整備が実施可能と考えており、地下水や地質の状況などの詳細な調査を実施しながら、検討を進めてまいります。

● これまでの調査

- ・現地の状況を把握し、詳細な設計を行うための測量や地質調査を平成22年7月までに実施しました。
- ・「八の釜憩いの森」周辺の地下水を平成20年12月からモニタリングしています。

● 現在の検討状況（イメージ図）

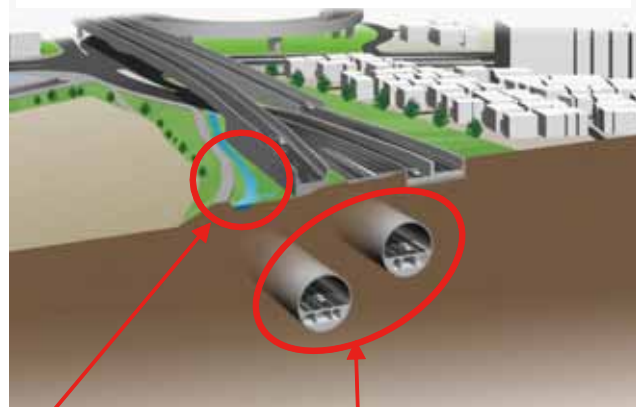
【現計画】外環本線は開削工法による施工を予定



開削工法の場合

- ・地上から土を掘り下げて構造物を構築

【現在の検討状況】外環本線をシールド工法で検討



【八の釜憩いの森】の湧き水

- ・都市計画の範囲内で、現在の湧水地周辺について、工事による地形の改変が極力少なくなるよう検討。

外環本線をシールド工法で検討

- ・開削工法と比べ、工事用車両が減り、騒音・振動や粉塵、排気ガス等の発生を低減することが可能。

検討の基本方針

- 本線トンネル部について、地上から土を掘り下げて、構造物を構築する開削工法を予定していましたが、シールド工法の技術の進歩を踏まえ、工事中の周辺地域への環境影響を極力抑えるために、一部シールド工法に変更する検討をしています。
 - ・工法を変更することで工事用車両の騒音・振動や粉塵、排気ガス等の発生の低減が可能となります。
- さらに、地域課題検討会などで頂いた意見をもとに、都市計画の範囲内で、現在の湧水地周辺について工事による地形の改変が極力少なくなるよう検討しています。

【八の釜憩いの森】の環境保全措置

- 現在、「八の釜憩いの森」については、一部湧水地周辺の地形の改変を極力少なくなるよう検討していますが、既に供用されている関越自動車道及び東京外環自動車道に接続し、車両が安全に通行できる道路構造とするために、消失が不可避となっています。このことから、今後、これまでの地下水や「カワモズク」の調査に加え、「八の釜憩いの森」に生息する動物や植物について詳細に調査し、都市計画の範囲内で環境保全措置を行う場所や方法等の検討を進めます。

〔ジャンクション・インターチェンジ名称は仮称、供用区間は除く〕

機能補償道路の検討状況 (大泉ジャンクション)

「対応の方針」

- 大泉ジャンクションの事業実施に伴い、現況のコミュニティに影響が生じる箇所については、環境施設帯などを活用した分断道路の機能を補完する道路を確保します。
- 分断道路の機能を補完する道路の整備にあたっては、行き止まり道路の状況、周辺の生活道路の状況を把握したうえで、地域のみなさまの意見を聴きながら、練馬区とともに検討し、それまでの利便性の低下を生じないよう機能確保に努めます。
- また、三原台中学校、泉新小学校などの周辺の通学路の安全確保及び土支田通りや東映通り、大泉街道などを通るバス路線の確保について、現状を十分把握し、練馬区と一緒に地域のみなさまの意見を聴くとともに、バス事業者など関係機関と協議しながら、機能の確保を検討していきます。

● 現在の検討状況

【周辺道路の状況の把握】

- 周辺道路の状況（車線数、幅員、歩道の有無、バス路線等）を把握しました。



検討の基本方針

- 通学路や生活動線の現状を把握した結果を基に都市計画道路の計画を踏まえつつ環境施設帯を活用し現状の機能を補完する道路計画を検討します。
- また、地域の皆様の意見を聴きながら地域特性やまちづくり計画に配慮した道路計画とするように、東京都や練馬区とともに検討を進めます。

〔ジャンクション・インターチェンジ名称は仮称、供用区間は除く〕